

一 【放送問題】 試験が始まってから五分後に放送が入ります。左の項目に目を通しておいってください。

問1から問3まで、それぞれの問題も放送で読み上げます。なお、放送の中に出てくる難しい言葉の説明を、注として左に挙げています。目を通しておいってください。

注

・ネットメディア：インターネットメディアの略。ホームページから二四時間、国境を問わずつながっている情報媒体のこと。

（媒体とは、情報を伝えるための手段のこと。）

・紙媒体：情報を伝えるためのメディアのうち、紙に印刷されたもの。

・電子媒体：情報を伝えるためのメディアのうち、パソコンなどの機器を通して公開されるもの。

（メモ欄）

問1 問題は放送で読み上げます。

新聞は、見出しの大きさで記事の を知らせてくれる。

問2 問題は放送で読み上げます。

好みの情報を消費するだけで満足し、いつまでも にとど。

問3 問題は放送で読み上げます。

問4 筆者の考えとして、正しいものには○、誤りがあるものに×をつけなさい。

- ① 日本の中で、新聞・雑誌は、今後も紙媒体かみばいたいという形を変えずに、受け継つがれていくだろう。
- ② 私たちは、様々な角度から情報と向き合うことで、より一層の成長が期待できる。
- ③ ネットのニュースサイトは、主に新聞社から提供ていきょうされた情報を使っている。
- ④ 今新聞をとっている家庭は、なるべく早くスマートフォンスマートフォンのニュースサイトに変えるべきだ。
- ⑤ 新聞、テレビ、ネットが社会の中で背負う役割は、どれも同じである。

二 次の文章を読んで、後の問いにこたえなさい。

中学二年生の早弥と春と実良は、弓道部に所属している。実良は天才肌だが、このところスランプにおちいついて、中体連の団体戦のメンバーには部長の由佳と春・早弥が選ばれた。

ガクあじさいが枯れていた。水切りをしなかったせいだ。棚の下には、実良が残っていた荷物が一かたまりになっている。逃げ出したかったのは、わたしのほうだ。

団体戦のレギュラーになるなんて、まったく予想外だった。そりゃ、選ばれる人たちをうらやましく思う気持ちはあるけれど、自分にはそんな力はないことは、わかっている。

「はあ」

大きなため息をつく早弥に、

「これ、届けてやろう」

と、春が実良の荷物に指をさした。道具入れの中には、制服も入っているはずだから、これがなければ、明日は困るだろう。けれど、早弥はすぐには返事ができなかった。実良にしてみても、自分よりもへたくそな人がレギュラーに選ばれて、きつとおもしろくないだろう。どんな顔をすればいいのだ。

「わたしが行こうか？」

案じたように言ってくれた由佳に、早弥は首を振った。先輩にそんなことをさせてはいけない。

「大丈夫です。春、行こう」

早弥は実良のバッグをつかんだ。^① たわにがら下がったマスコットが揺れるそれを、肩にかけた。

A

 重い。それはそのまま、早弥の肩にかかった試合へのプレッシャーのようだった。

「いくら調子が悪くても、実良が出たほうがましやないかな」

歩きながら早弥は春にたずねてみた。正直な気持ちだったけど、言葉にしたらひどくみっともなく思えてくる。

自分でもうんざりするような問いを春は真剣に受け取ってくれたのか、じっと考えこんでいる。

やがて、ぽつんと言った。

「早弥は試合には出たくないんか」

質問を質問で返されて、とまどった。そんなこと考えたことがなかったのだ。入部したときから、自分が一番へたっぴだったから、三人しか出られない枠に入るとは考えたこともなかった。

「もっと自分を信じろっちゃ」

質問に答えられないで黙っていると、春はそう言った。

「信じられん」

「なんで」

「だって、わたしだよ？」

だめな自分のことはよくわかっている。

「だいたい、早弥はおびえすぎなんちゃ。おれだって、怖いんよ」

「だって、わたしが一番へたくそなんよ。春とはちがう」

春とだけじゃない。段位を持っている由佳とはもちろんのこと、才能にあふれている実良とも自分はちがいきる。

「そりゃみんなちがうやろ」

春は言った。ふと春を見る。思慮深そうな静かな目だ。^② 春が言うと、「ちがう」という言葉は果てしない意味を持つように思えた。

春にはきつと、いろんなことがあったにちがいない。

小学校五年生で日本の小学校に転校してきた春。学校のみんなは、びっくり仰天^{ぎやうてん}で迎えた。春の外見が、あまりにちがすぎていたからだ。早弥の住む地方都市において、外国人というのは珍^{めづ}しい。しかもアフリカ系の父を持つのだからなおさらだ。

最初、春の周りにはだれも近寄らなかった。早弥だってそうだった。

今になってみれば、自分の肌^{はだ}の色の延長線上にあるにすぎないとわかる春の肌^{はだ}が、まったく種類のちがうものに感じられた。ちゃんと見れば、ぱっちり澄^すみ切っている目にも、野生動物のような鋭^{すど}さを感じた。

そのうえ、春の日本語は、あまり上手じゃなかったから、どんな子なのかわかりづらかった。

そのうち、春の性格の素直^{すなお}さや、頭脳^{ずなう}の明晰^{めいせい}さ、並外れた運動能力やリズム感、そういうものが顕著^{けんちやく}になってくるにつれ、警戒感^{けいかい}も薄^{うす}れてきた。自然、春は人^{ひと}気^き者^{もの}になった。が、同時にそのころから、心ない中傷^{ちゆうきやう}をする人が出てきたのも事実だ。

「ちがうのはあたりまえなんよ。だけ、それぞれに持てる能力で最善をつくすしかないんよ。早弥も自分なりにがんばれ。がんばって、試合で負けてもだれも責めん。少なくともおれは」

春が言った

B

心が軽くなる。

「コクジン」

公園のわきを通りかかると、不意にどこからか声がした。鼻にかかった気持ちの悪い声だ。くすくすと押し殺^{ころ}したような笑い声もする。

早弥はあたりを見回した。けれど声の主と思える人は見当たらない。どうやら、どこかに隠^{かく}れているらしい。自分は安全なところにながら、相手だけを傷つけようとする卑怯^{ひきやう}さに、早弥は気持ちが悪くなった。

「デートヤン。コクジンさんとデート」

「こら、きさん！」

突然^{とつぜん}、どすのきいた声で、春がどなった。日ごろ正座や呼吸^{きそく}で丹田^{たんでん}を鍛^{きた}えている春の声は、空気を切り裂^さくようにとどろ

きわたった。

「わーっ」

草むらから数人の小学生が飛び出してきた。さやから勢いよく豆が飛び出すように、われ先とにげ出した。

「わははは」

「あははは」

春が笑い出し、早弥もつられて大笑いした。ひとしきり二人で笑ってから、早弥はきいた。

「春の北九州弁、だれに教えてもらったと？ すごいんやけど」

「岡野先生」

春は小学校のときの先生の名前を、ナツかしそ^bうに口にした。岡野先生は、若い男の先生だった。来日したてで日本語が不自由だった春には、最初の一年ほど一人の先生がフォローでついていた。別室で日本語の読み書きをオソわ^cっていたのだ。

「北九州弁で、『こら』は『ちよっと』、『きさん』は『あなた』の意味っち習ったんよ」

「うそやん、そんなの」

「あと、『なんしよんかっちゃ』は『どうしたのですか』っち。だけ、『こらきさん、なんしよんかっちゃ』で、『ちよっと、

あなた、C』という敬語っち」

「ありえんよ、それは」

それは相当柄^{がら}の悪い言葉だ。普通^{ふつう}の中学生はギャグでしか使わない。

「でも、これ、使えるんよ」

春はおおらかに笑った。

「おれがそう言い始めたら、それまでの嫌^{いや}がらせがだんだん減ってきたんよ。ノートを真っ黒に塗^ぬられたり、教科書をのり

ではりつけられることもなくなった」

「怖かったんかね」

早弥が問うと、春はゆっくりと首を振った。

「いいや。おれが自分たちと同じ言葉を使ったことで、受け入れてくれたと思う。たぶん」

春はやや遅れた早弥をマツように、ゆっくり歩いている。

春は大きい。心が大きい。大きな背中に早弥は小走りで追いついた。

実良の住むマンションが見えてきた。

「お、実良」

春が叫ぶ。

実良は、マンションの玄関の前で小さな女の子みたいにくすぐまっている。鍵のない実良は、中に入れないのだ。かといって、飛び出してきた道場に帰れもなかったのだろう。ふてくされたような顔が次第にはっきりしてきた。

(まはら 三桃「たまごを持つように」より)

*明晰：筋道が通っていて、言うことがだれにでもよくわかる様子。

*顕著：はつきり目立つさま。

*中傷：根拠のないことを言い、他人の名誉を傷つけること。

*丹田：へその下の辺り。

問1 部 a d について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問2 空欄 A B にはいる最も適当なことをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア ほっと イ きっぱりと ウ ぐったりと エ すっと オ ずっしりと

問3 空欄 C に当てはまることばを答えなさい。

問4 部①「たわなにぶら下がったマスコットが揺れるそれ」を絵で表しなさい。

解答用紙(その二)を使うこと。「受験番号」「出身学校」「氏名」を必ず記入すること。

問5 部②「春が言う」と、『ちがう』という言葉は果てしない意味を持つように思えた。」とありますが、なぜ早弥はこのように思ったのでしょうか。早弥の言った「ちがう」と比較して、八十字以上百字以内でわかりやすく説明しなさい。

問6 部③「コクジン」を作者がカタカナで表現したのはどのような意図(特別な理由)がありますか。あなたの考えを書きなさい。

問7 この文章の表現上の特徴として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 会話文が多く、情景や心情はあまり書かれていない。
- イ 多くの人物が登場し、弓道部のにぎやかな様子を表現している。
- ウ 方言を使うことで、北九州の人にだけ親しみやすい文章にしている。
- エ 比喩（たとえ）表現を多く使い、場面の様子をわかりやすくしている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一〇〇〇年先の地球を考えてみましょう。こうした未来の話は、科学では扱えませんが、人間は自由に考えることができます。サイエンス・フィクション（SF）の世界、あるいはマンガとかアニメとか、そういう世界では人間は自由に空想し、表現します。

A、そうやって人間が空想したことが現実になるということも、数多く知られています。一〇〇年前に、人間が宇宙旅行をする、月へ行くというようなことは、作り話（フィクション）の世界でのことでしたし、一〇〇〇年前に、遠く離れた人たがいに顔を見ながら話をするなどということは、夢のなかのできごとしか理解されなかったにちがいありません。しかし、今はそれが実現しています。そう考えていくと、「ごみゼロ社会」を空想するのも、あながち無意味なことにはならないでしょう。

① **ごみは、社会そのものと表と裏の関係にあります**から、ごみの未来を考えることは結局、社会と地球の未来を考えることになります。

そこで、ごみのSFをつくろうとすると、未来をイメージしなければなりません。そのとき思想（見方、考え方）が大切になってきます。② **思想は大きく二つに分けられます**。

一つは、人間の可能性、とくに科学技術の発達に未来を託すものです。ここから、宇宙空間への移住というシナリオが生まれます。

人間はつねに新しい技術を開発し、未開の地（フロンティア）を開拓してきました。コロンブスのアメリカ大陸発見から五〇〇年をへたこんにちでは、北極から南極に至るまで、地球上で人間の到達しないところはなくなってきました。地球が小さくなったのです。そして資源が減り、その分ごみが増えて地球のなかにたまってきています。

しかし、地球が資源の枯渇と環境の悪化で住みにくくなっても心配ありません。ちょっと目を宇宙に向ければ、無限に近

い広さの空間が残されています。

そこで、人類は宇宙へ自分たちの生活空間を広げていく、そういう宿命というか、発展の必然性をもっているというふうに考えることができます。実際、こういう考え方で、数十万人規模での宇宙居住計画がアメリカで提案されています。巨大な人工惑星をつくって、そこで新しい生活をすすめていく。ここでは重力を人工的につくり出します。そして、空気と水を運び込み、動物、植物、微生物からなる生態系をつくり、ごみを一〇〇％リサイクルします。計画の実現には日本円で約六〇兆円が必要と試算されていますので、すぐには実現しないでしょう。しかしSFの世界ではとくに実現しています。

映画『スター・ウォーズ』はその代表作の一つでしょう。地球から脱出した人間が、いくつもの人工惑星の浮かぶ宇宙空間で生活しています。光速に近い速度で移動することによって、人間は宇宙を十分に使いこなしています。

こうした世界では、地球はどうなっているのでしょうか。資源をとりつくし、環境がごみでいっぱいになった地球は、そのほとんどが砂漠のような不毛の地になっています。そこにはロボットと奇形の動物とおちこぼれた人間が生きています。地球そのものがごみとして捨てられ、第二、第三の人工衛星が生活の空間となっています。

もう一つの思想は、やや悲劇的です。人間はおろかで、結局は自らを滅ぼしてしまうというものです。この思想にもとづいたシナリオは、一〇〇〇年後でも人間は地球に住みつづけていることが前提になっています。宮崎駿の映画『風の谷のナウシカ』はその一つです。自然を破壊し廃墟と化した地球で、必死に生きようとしている人間の愛と闘いの話です。ここでは、さまざまな有害物質の捨て場である腐海からその有害物質を食物として生まれてくる王蟲という動物が出てきます。そして自然から資源を一方的に収奪して生産しつづけようとする集団と、自然のなかに適合して生きていこうとする集団との対立がメインテーマになっています。

映画『猿の惑星』も同じ思想に立っています。これは、猿が万物の霊長として栄えている惑星での話です。あるとき言葉らしいものをしゃべるめずらしい動物が発見されます。オリに入られて見せものになります。じつは、このめずらしい動物は人間なのです。そしてラストシーンでこの猿の惑星は、地球そのもの人類が減びたあとの地球だったことがわかった

いうわけです。

B、この二つの思想はどちらが正しいのでしょうか、第三の道はないのでしょうか。「ごみゼロ社会」のシナリオには、第三の思想が必要です。

いくら便利にできているといっても人工惑星で生活するよりは、できることならやはり住みなれた地球に住んでいたいとだれしも思うことでしょう。そうはいっても、資源がとりつくされ、ごみで汚染された地球に住むのはいやです。一〇〇〇年後であっても、やはり緑豊かな水の惑星として知られた地球に住んでいたいものです。第三の思想は、地球の環境と生態系を維持しながら、なおかつ人間が生活し反映しつづけられるものでなければなりません。

Aという生産体系でものを生産するときに出てくるごみが、Bという生産体系から見ると、生産に必要な資源になっている。そしてBがその資源から必要なものをつくるときに出てくるごみが、最初の生産体系Aの資源になっている。そういう生産と再生産の循環の輪をつくること、これが「ごみゼロ社会」の思想です。

地球の物質の重さは一〇〇〇年後になっても現在の重さと変わりません。しかも、資源は使えば必ずごみになります。そしてそのごみを地球の外に運ぶことはできないのです。ごみは環境を汚染し人間に危害を与えます。とすれば地球はごみで埋まり、人類は早晩滅びることになります。それを避ける道はただ一つ、ごみを資源として利用し、ごみ以外のものを資源として利用しない社会、すなわち「ごみゼロ社会」の思想を実践に移すしかないのです。

そんなうまいことがはたしてできるでしょうか。

ちゃんと手本があります。地球の生態系がもっている生態循環というメカニズムです。植物にとっては、二酸化炭素が食糧です。二酸化炭素は炭素と酸素でできています。植物はその炭素を使って、自分の体をつくっていきます。原料の二酸化炭素から炭素をとってしまうと酸素が残るので、植物はこれを体外に捨てます。植物にとって酸素はごみです。

この酸素を資源の一つとして生きているのが動物、それに人間です。人間は **X** を吸い、植物と動物を食べて自分の体をつくってゆきます。そして有機物を分解してエネルギーを得て生きてゆくことができますが、このと

Y をごみとして捨てます。そしてそのごみを食糧として植物が増え……ということがくり返されているのです。

地球の歴史を一年に縮めてみると、人間は最後の日に登場した新参者です。微生物、植物、動物は人間にとって地球の大先輩です。そしてこの先輩たちはじつにたくみな仕組みをもって、たがいに共存共栄しています。循環しているのは炭素だけではありません。窒素、リン、カリウムのような元素は、植物に吸収されて有機物に含まれ、そしてこの有機物を食べる動物と動物が出すごみにも含まれます。植物や動物を微生物が分解してふたたび無機の窒素、リン、カリウムなどにし、それをまた植物が吸収します。こうしてこれらの元素は循環しています。^③こうした地球の大先輩の知恵を、人類は謙虚に学んでいかなければならないのではないのでしょうか。

(八太昭道「新版 ごみから地球を考える」より)

*シナリオ…映画用の脚本、筋書き。

*枯渇…補充がつかず欠乏すること。

*生態系…生物とそれを取り囲む環境を総合してとらえたもの。

*収奪…当然のことに自分のものにする。

*霊長…生物の中で最も進化したもの。

*早晩…おそかれ早かれ。

*謙虚…自分をえらいものと思わず、素直に学ぶ気持ちがあること。

問1 空欄 A、B に当てはまる言葉を、次のア～オよりそれぞれ選びなさい。

ア そして イ さて ウ または エ しかし オ そこで

問2 空欄 X、Y に当てはまる言葉を、それぞれ文中より抜き出しなさい。

問3 — 部①「ごみは、社会そのものと表と裏の関係にあります」とはどういうことですか。最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

ア 一見すると街並みはきれいだが、路地裏にはごみが放置されているということ。

イ 社会そのものは、人間が生み出したごみによって成り立っているということ。

ウ 速さ、利便さ、消費を追求する社会ゆえに、それとともにごみも生まれるということ。

エ 将来ごみについて研究しつづけることで、必ず社会が減んでいくということ。

オ 社会そのものを、表から見ても裏から見ても、常にごみの問題がつきまといっているということ。

問4 — 部②について、「二つの思想」とはどのような思想ですか。「という思想」に続くように、文中より二十字以上二十文字以内で、二つ抜き出しなさい。

問5 — 部③「こうした地球の大先輩の知恵」とありますが、

I ここでの「知恵」とは何ですか。文中の五字以内の言葉で抜き出しなさい。

II また、この「知恵」は、「ごみゼロ社会」の思想でいうとどういうことですか。文中より二十字以内で抜き出しなさい。

問6 本文の内容と合致するものを、次のア～カより全て選びなさい。

ア SFの世界は、人間が自由に空想し表現したもののだが、実際、現実となり得ることもある。

イ ごみのSFをつくるには、過去から現在をイメージする必要がある。

ウ ごみによって環境が悪化し破壊された結果、地球は小さくなったと言える。

エ 映画『スター・ウォーズ』で描かれる人間は、地球と人工惑星を上手に使い分けている。

オ 映画『風の谷のナウシカ』も『猿の惑星』も、人間が地球に住み続けているという点で共通している。

カ ごみのない社会を作ろうと思ったら、我々は、微生物や植物、動物から学ばなければならない。

問7 現在、飲食店では、プラスチックストロー^{はいし}廃止の動きが広がっています。このことについて、賛成、反対の立場を明確にした上で、あなたの意見を100字以上120字以内で述べなさい。（書き出しを「マス空ける必要はありません。句読点も一字に数えます。」）

四 次の各問いに答えなさい。

問1 次の――部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① リンジヨウ感のある舞台だった。
- ② ハクアイの精神をもった人。
- ③ 明朗で元氣のある生徒。
- ④ 話の内容が重複する。

問2 次の各組の漢字に共通してつけることのできる部首を、解答欄に書き、その部首名を答えなさい。

(例) 毎・千・青 ↓ 「部首」シ 「部首名」さんずい

- ① 束・車・佳 ② 予・丁・占

問3 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「いろはかるた」は、「いろは歌」四十七文字と「京」の文字をそれぞれ頭字とすることわざを選び、集めたかるたです。この「いろはかるた」は江戸時代に京都で作られ、その後「京系かるた」「江戸系かるた」「大阪系かるた」と、広がっていきました。これら三種類のかるたは、同じ頭文字に対して、異なることわざが用いられています。それぞれのかるたの「い」「ろ」「は」から始まることわざは、左の通りです。

【江戸系かるた】

「い」 a も歩けば棒にあたる
「ろ」 論より証拠
「は」 花より団子

【京系かるた】

「い」一寸先は闇
「ろ」論語読みの論語知らず
「は」 b の穴から天井のぞく

【大阪系かるた】

「い」 c を聞いて d を知る
「ろ」六十の三つ子
「は」花より団子

① a d にあてはまる語を、漢字一文字で答えなさい。

② 「論より証拠」と似た意味をもつことわざを次のア～エのうちから一つ選びなさい。

- ア とらぬ狸の皮算用 イ 石橋をたたいて渡る ウ 百聞は一見にしかず エ 鬼に金棒

国語(その一)

得点

一			
問 4	問 3	問 2	問 1
①	①		
②	②		
③	③		
④	④		
⑤			

[illegible][illegible]

四				
問 3		問 2	問 1	
②	①	①	①	
	a	部首		
	b	部首名	②	
			③	
	c			
		②	部首	④
d	部首名			

二〇二〇年度

加藤学園暁秀中学校

入学試験問題解答用紙 国語(その二)

受験番号	出身学校	氏名
番	初等学校 小学校	

得点

二
問 4